農業活動を通じた社会教育の実践（２年G組）

【学　　校】秋田県立大曲農業高等学校太田分校
【メンバー】伊藤 和泉、佐藤 悠大

【選択】農業コース

１背景・目的

2025年の農林業センサスによると、全国の農業経営体数は令和２年は1,092,250経営体から令和７年の828,405経営体と263,845経営体の減少、秋田県では令和２年の28,947経営体から令和７年の21,011経営体と7,936経営体が減少している。このように、担い手・人手不足の加速が止まらない。また、秋田県の基幹的農業従事者の令和７年平均年齢は68.4歳と高齢化が著しく進行している。世界に目を向けると人口増加や気候変動等が原因となり、物価が高騰、食料はあるが高価で購入できない事態が発生し、家計を圧迫している。このような状況では、本来楽しいはずの「食」の魅力が伝わりにくい。現状を打破するため、近年聞くようになった「食育」「花育」「木育」といった農業活動を組み込んだ社会教育に着目した。本研究では、農業活動の可能性と、社会のこれからを担う子供への実践・効用を紐解いていきたい。

２ 仮説・構想

【「学校」からできるアクション】
①農業の楽しさを子供たちに感じてもらう！
②農業に体験を通して興味を持ってもらう！
③農業は魅力ある産業であることを伝える！

ゴール　**農業体験を通して…**

①農業の「やりがい」や「苦労」がわかる!
②食の「楽しさ」や「喜び」が実感できる!
③自然の「美しさ」や「厳しさ」がわかる!

３ 方法 ①

農業体験は、以下の教育機関との連携を図りながら、次の体験内容と日程で実践した。

教育機関	わんぱくランド	太田南小学校	太田北小学校
野菜・花植栽体験		５月９日	
田植え体験	５月３０日	５月３０日	５月２６日
稲刈り体験	９月１６日	９月１６日	９月２２日

４ 方法 ②

体験内容では、農業への理解を深めるために、使用する道具の説明や体験に関連するクイズを導入した。また、体験者の年齢が５歳～10歳のため、説明の際は図やイラストを使用し、言葉だけでの説明で想像しづらい場合は、実演をして見せ、不安感の軽減を図った。さらに、体験者が体験以外に「体験してよかった」と思えるよう、サプライズを組み込んだ。このように、わかりやすさに配慮するとともに、農業活動が私生活に密接に関わっていることが伝わるように心掛けた。

【植栽体験】説明の様子

【田植え体験】実演の様子

【田植え体験】サプライズの様子
マリーゴールドのプレゼント

【稲刈り体験】実演の様子

５ 結果・考察

農業活動を通じて地域の教育機関と連携し、農業のやりがいや命の尊さ、自然の力強さを伝えられた。体験中の子供たちは、クイズに真剣な目つきで臨み、作業は笑顔が絶えなかった。よって、体験者にとって心に残った体験ができたと感じている。しかし、説明が伝わりづらいなど、準備不足があったため、体験者の視点に立ったサポートが必要であると考える。

６ 結論・展望

体験者に農業の魅力を概ね伝えることができた。しかし、農業活動を通して、最大限に「食」の魅力を発揮するためには、活動の継続が重要である。よって、体験者のニーズを汲み入れながら、地域資源を活用し、体験のつながりを意識した内容を複数展開していきたい。